

富士市中小企業景況調査結果

令和4年度 第1四半期【令和4年4月～6月】

令和4年7月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、201事業所(回収率74.1%)を対象に、「令和4年4月～6月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI（景気動向指数）とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和4年1月～3月 今期…令和4年4月～6月 来期…令和4年7月～9月

表中の矢印＝5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲27.8	↗	▲21.4 (▲28.9)	→	▲23.5
売上	▲12.7	→	▲12.1 (▲25.4)	↗	▲1.5
採算	▲33.6	→	▲30.0 (▲24.6)	→	▲31.1

今期調査では、全産業合計の業況DIが+6.4ポイント、売上DI+0.6ポイント、採算DIが+3.6ポイントの改善となった。来期の予測について業況・採算DIは横ばい、売上DIは改善の見込みとなった。業種別の来期業況DIは、製造業・建設業・小売業は横ばい、卸売業・サービス業は下降を予測し、売上高はサービス業が横ばい、他4業種は上昇と予測。採算DIは小売業・サービス業は下降、建設業・卸売業は横ばい、製造業は上昇の予測となった。

全体を通して、物価高騰に対する不安感が目立った。コロナ不況からの回復に伴う需要増に対して商品が不足しているといった声も多かった。仕入価格の増加分を販売価格には転嫁できていないという声も多かった。また、コロナ禍でも売上を伸ばす事業者もあり、二極化を指摘する声も多かった。

経営上の問題点では、5業種全てで「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業、卸売業は下降。建設業は横ばい。小売業、サービス業は上昇。

来期予想は製造業、建設業、小売業は横ばいを予想。卸売業、サービス業は下降。

業 種	前 期		今 期 (前年同期)		来期予測
製 造 業	▲17.3	↘	▲39.4 (▲28.1)	→	▲35.3
建 設 業	▲35.7	→	▲31.0 (▲28.0)	→	▲31.0
卸 売 業	▲4.1	↘	▲11.5 (▲15.0)	↘	▲19.3
小 売 業	▲26.1	↗	▲13.0 (▲41.7)	→	▲13.6
サービス業	▲51.8	↗	▲6.9 (▲29.6)	↘	▲13.8
全 産 業	▲27.8	↗	▲21.4 (▲28.9)	→	▲23.5

〔売上高のDI〕 製造業、卸売業、小売業は下降。建設業は横ばい。サービス業は上昇。

来期予想はサービス業は横ばい。他4業種で上昇。

業 種	前 期		今 期 (前年同期)		来期予測
製 造 業	0.0	↘	▲26.5 (▲26.5)	↗	▲2.9
建 設 業	▲17.9	→	▲21.4 (▲38.5)	↗	▲10.7
卸 売 業	4.1	↘	▲14.8 (▲10.0)	↗	▲3.8
小 売 業	4.4	↘	▲4.3 (▲37.5)	↗	4.6
サービス業	▲48.3	↗	10.4 (▲11.5)	→	6.9
全 産 業	▲12.7	→	▲12.1 (▲25.4)	↗	▲1.5

〔採算のDI〕 製造業、建設業で下降。卸売業は横ばい。小売業、サービス業は上昇。

来期予想は製造業は上昇。建設業、卸売業は横ばい、小売業、サービス業は下降。

業 種	前 期		今 期 (前年同期)		来期予測
製 造 業	▲36.6	↘	▲58.8 (▲12.1)	↗	▲47.0
建 設 業	▲32.1	↘	▲39.3 (▲42.4)	→	▲40.7
卸 売 業	▲12.5	→	▲15.4 (▲5.0)	→	▲15.4
小 売 業	▲21.7	↗	▲13.1 (▲37.5)	↘	▲27.3
サービス業	▲58.7	↗	▲13.8 (▲25.9)	↘	▲20.7
全 産 業	▲33.6	→	▲30.0 (▲24.6)	→	▲31.1

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…総じて家庭紙は値上げを希望する声が多かった。「ウクライナ情勢の緊迫化、円安等要因で、電気・ガスが値上がり、6月から包装用ビニール袋も値上げとなった。トイレットペーパー業界は、4月から値上げと公表していたが、いまだに据置状態である。一刻も早く、値上げの実施を期待する」「電気代やガス代が毎月上昇し、利幅が縮小してきているので、業界大手ではそろそろ値上げが実行されるのではないかと期待している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「海外からの観光客は徐々に受け入れを開始し、国内の旅行者も増加しているので、業界用トイレットペーパーの消費量が増加するだろうと期待する」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて材料価格の高騰を不安視する声が多く寄せられた。「材料高騰により見積りの有効期限が1週間となるなど、異常な状態となっている」「中国の都市封鎖による部品不足や、物流の混乱でキャンセルが発生し、受注が不安定となり売上が伸び悩んでいるようだ。また、半導体等の部品不足により、生産のストップが続いていることも、売上の減少に影響を及ぼしているようだ」とのコメントが寄せられた。

『紙加工』…「リモートワークが多少緩和され受注も6~7割程度回復してきた。人流も戻りつつあり、フル生産している紙製品もある」「一ヶ月先の状況もわからないと思われる」とのコメントも寄せられた。今後の見通しについては、「設備投資が活発になり、経済は回復基調になると予想。インバウンドも少しずつ回復しており、円安も手伝い、予想の6~7割の回復が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「業界全体としては不変ではあるが、企業間の格差が生じている」「状況がコロナ前に戻ることを切望する」「生産停止などで先を見通す事は難しいが、モデルチェンジなどもタイミングがずれると今後も厳しいと思われる」「業者からの受注価格が下降しており、すべて原材料が値上がりしている中、利益を上げる事が非常に大変だと痛感している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「受注はあるが、以前よりは減少傾向である。以前は未参入のメーカーも、相見積もりに参加するので価格競争が多くなり、厳しい状況である」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「国際情勢（ロックダウン、ロシアのウクライナ侵攻等）の影響による値上げにより、難しい状況になっている」「半導体等の部品不足や新型コロナウイルス感染拡大で工場の稼働率が低下し、トラックの販売数は減少している」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…総じて、原材料の高騰を不安視する声が多かった。「値上げ前の駆け込み需要があるが、原材料は既に値上げしており利益率が悪い。原材料(糸)の値上げが今年中にもう一度ある見込みである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「値上げの天井が見えない状況であり、価格転嫁も限度がある。収益圧迫の厳しい状況が続く見通しである」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材・印刷関連』…「印刷会社の倒産が目立つ。ウクライナ問題が長期化すれば、資材の値上げが年内にもう一度ある可能性があり、そうなれば更に状況は悪化する」とのコメントが寄せられた。

『食品』…総じて、原材料の高騰を不安視する声が多かった。「原材料価格が高騰しているが、小売業者が受け入れず、また対応が遅いためメーカーが耐えしのぶしかない状況である」「市場競争が激化し、悪循環が続くと推測する」「消費者の購買活動は徐々に戻りつつあるが、新型コロナウイルスの影響は依然として続いており、厳しい状況は変わらない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「年内は厳しい状況が続くと

思われる」「原材料事情に好転の兆しが見えず、光熱費、資材費、物流費も上昇が続いており、商品の値上げをせざるを得ない」「小売市場は価格の二極化が進んでいる」とのコメントが寄せられた。

『飲料』…「重油、肥料、農薬が値上がりしているのに、荒茶価格は下落している」「市場に頼るのはかなり厳しい。自販を伸ばすやり方を模索しなければならない」とのコメントが寄せられた。

『製材』…「ウッドショックにより価格上昇が起きるのは理解しているが、なかなか販売価格に転嫁できていない」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	9.1	42.4	48.5	▲39.4	横ばい
売上高	20.6	32.4	47.1	▲26.5	上 昇
採 算	11.8	17.6	70.6	▲58.8	上 昇

〔建 設 業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『総合建設』…総じて資材高騰と大手参入による過当競争を懸念する声が多かった。「建設資材の仕入れ価格高騰により事業予算と合わず、また納期も遅れを生じている状況である。そのため、売上が減少している」「公共工事の受注は土木工事を中心に引き続き安定している。民間工事は受注価格の競争激化で利益確保が厳しい」「原材料等に一部高騰があるが、受注が減少しており、それを販売価格に転嫁することが難しくなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「大手が、民間工事だけでなく地方の公共工事に参入し、少ない案件の取り合いで競争がますます激化するであろう」「製品・材料等の品不足が続く、経済の不透明感があり、現状が回復する兆しが見えてこない」、「依然、原材料の高騰が続いていて売上価格への反映が出来ていない状況が続いている」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…総じて資材高騰を不安視する声が多かった。「お客様の問い合わせが減少しているということはないが、仕入れ価格の上昇がこれからどのように影響するのか心配である」、「外食、行事、イベントも戻りつつあるようなので前向きにとらえたい」、「全ての物の値上げにより多大な影響がでている。全ての売値に反映出来ずに利益圧迫につながっていて大変な状況が今後もしばらく続くと思われる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「ウッドショック、半導体ショック等の品不足が続く為、不透明である」とのコメントが寄せられた。

『建設関連』…「官公庁発注工事の減少や資材の値上がりにより利益が圧迫されている」「富士市は民間投資が他地域と比べて多いので、工夫次第で売上回復は可能と考えている」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…「人員人材の不足による作業効率が悪化。利益も減少している」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「草刈りや芝刈りが多くなった。庭木が大きくなったので切ってほしいとの受注が多くなった」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…「過当競争状態は相も変わらずと思われる。受注の減少、材料・仕入れ価格の高騰が懸念される」「取引先の予算減少により見通しはよくない」とのコメントが寄せら

れた。今後の見通しについては、「原材料価格の高騰で利益は圧迫。しばらく厳しい状況が続く。利益減による累積赤字が当面の間響きそうである」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	6.9	55.2	37.9	▲31.0	横ばい
売上高	17.9	42.9	39.3	▲21.4	上 昇
採 算	7.1	46.4	46.4	▲39.3	横ばい

【卸 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…総じて仕入値の高騰と納期遅延を不安視する声が多かった。「取引先の発注が低迷している」「コロナ、ロシアのウクライナ侵攻の影響大」「部品の納期の長期化が更に進んでいる。解消するのにあと1年以上はかかると思われる。また、原材料価格や流通コストの上昇という名目で値上げが進んでいる。ユーザーの購入意欲が高いのに、供給が追い付かず申し訳ないと感じている」「取引先の廃業が増加して受注が減少している」「半導体の影響で国産部品（主に制御機器）の納期に遅れが生じており、生産に支障をきたすユーザーが出てこないか心配である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「工事発注に波があり動向は明るくない」「全ての商品が値上がり、円安も進み日本の経済に対する不安が増している。コロナから日常に戻りつつあるタイミングで、国の大きな対策を望む。小手先の給付金はあまり意味がない」「先行きの見通しが全くつかない」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「コロナ禍で各国の工場が休業し、半導体を始めとした部品供給と新車の生産が遅れた。そのため中古車が少ない。ガソリン価格の高騰で遠出を控える傾向が多く、交換部品の受注も極端に落ち込んだ」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「半導体の供給は徐々に戻りつつあるようだ。為替相場の悪化や物価の高騰、ロシアのウクライナ侵攻などで見通しがつかない」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「工事が少ないので建設資材があまり動かない。仕入価格は上がり続けている」「原材料価格の高騰や仕入商品全般の価格上昇。海外からの入荷遅延などがある。建築業界の業績は不安定だと感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「建設工事が少ない上、特に大型案件が少ないようだ。今後の見通しは良いとは言えない」「需要に対して企業間の競争が厳しくなると思う。価格も含め選ばれる企業への体質改善を進めたい。業界として需要が増加に転ぶことを期待したい」「仕入価格の高止まりで在庫の調達が非常に難しい」とのコメントが寄せられた。

『紙』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「紙をはじめとして資材の値上げが相次いでいる」「仕入価格の高騰で販売価格に転嫁せざるを得ない状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現状は得意先で値上げを受け入れてもらっているが、更なる値上げが必要になるのではと懸念している」「コロナが落ち着き団体でのイベントが増える反面、値上げによる受注減の課題がある」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…総じて製紙原料の減少を不安視する声が多かった。「一部需要があるものもあるが、入荷遅れによる販売チャンスを逃している」「今後の成長見込みの無い分野からの撤退を考え、新境地に進むために力を注ぎたい」「製紙原料の減少を日々感じている。この

ままでは会社の維持も難しくなり、経営の方向性を少しずつ変えていかなければと思うが、今の会社で何ができるか悩むところである」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…総じて中国の影響による鋼材需要の減少に関する声が多かった。現状については「鉄と非鉄スクラップの価格はロシアのウクライナ侵攻の影響で一時的に上昇していたが、最近は落ち着いてきた。鋼材は中国の都市封鎖で需要が落ち込み、下落している。EV（電気自動車）等の需要大で銅系は上昇している」「鉄スクラップの国内価格が下落。ロシアのウクライナ侵攻で生じた世界的な鉄スクラップ不足がここに来て落ち着いた上、中国の都市封鎖で鋼材需要が落ち込んだ余波でアジアへの鉄スクラップ輸出が停滞。国内の鋼材価格の高騰を鈍らせる可能性あり」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「中国の都市封鎖が解除されたが、中国の経済正常化に時間がかかるだろう」「6月から中国の都市封鎖が解除されたが、中国の経済正常化には時間がかかるとの見方も強く、鉄スクラップ相場の急速な反転上昇を予想しにくい。当面はまだ下がる可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…総じて製紙生産量の鈍化と仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「製紙業では、古紙の入手難により生産調整が進むだろう」「原材料、燃料費増により厳しい状況が続くだろう」「製紙用薬品の値上げが昨年秋より始まり、今も継続している。終着点が見えない。」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「値上げの終着点が見えない」「先行き不透明で本当に厳しい」とのコメントが寄せられた。

『食品・事業協同組合』…「観光や接待の減少などで、食品加工業は影響を受けている。原材料の高騰が一番の悩みである」「鮮魚価格が高騰し、しらすの価格も上がっている。しかし、漁協での販売価格は上げにくく、結果として収益が伸び悩んでいる。また、原油価格の高騰も漁業者および漁協の経営を圧迫している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「円安、原材料の高騰は当面続く。企業体力、社員の理解が必要になると思う」「しらすの好不漁の見通しはまったくわからない。また、原油価格が下降しなければ業況は好転しないと考えられる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「大手商社の3月決算を見ると大幅に改善しているが、地方の中小では改善が見られない。業界や業種間の格差も広がっているように感じる」「富士本町の軽トラ市が久しぶりに開催され、賑わいを見せていた。この先、様々な不安材料（新型コロナ、ロシアのウクライナ侵攻、品不足、仕入れ値高騰など）が解消し、日本経済が復活することを願いたい」「工場や工務店、建築・建設現場などの仕事も徐々に動き始めている感がある」「民間の設備投資の意欲が出始めているように感じる」「工場等跡地にドラッグストアやスーパー等の出店が多いが、若者が集まるレジャーセンターなどが出店すると賑やかになる」「鉄鋼製品価格は、原材料価格や運賃などのコスト増で製品価格に転嫁して採算改善を計ることとなる」「コロナが明けてイベントが増えるが人員が揃わず、仕方なくキャンセルするケースも多いようだ」「修理用部品の落ち込みで、30年来の売上減少となる。対前年で売上利益とも10%程度の落ち込みとなった」「他県からの大手企業の参入は賛成する」「コロナ禍で、あらゆる会社が国の支援でどうにか存続しているが、今年の年末にかけて厳しくなると予想される」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	23.1	42.3	34.6	▲11.5	下 降
売上高	25.9	33.3	40.7	▲14.8	上 昇
採 算	23.1	38.5	38.5	▲15.4	横ばい

【小 売 業】 景気ムード…【低 調】

『各種食料品』…総じて物価上昇を不安視する声が多かった。「コロナも落ち着いて平常に戻りつつあるように感じる。売上の良い会社と悪い会社の二極化が進んでいるように感じる」「アフターコロナへの移行に伴い少しずつ人出も多くなり売り上げも増えつつある」「価格競争が激しく、値上げが難しい。小麦不足で米に注目が集まる。仕入価格の相場が上がってきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「大幅な物価上昇に対し給与は上がっていない。可処分所得の減少による消費者の買い控えが懸念される」「値上げをしなければならないが、既存取引先は難しく新規営業先で価格を上げて提案していくしかない」とのコメントが寄せられた。

『食料・飲料』…「リーフ茶の需要減退による売上低迷が続いている。全体的に荒茶価格は振るわない。コロナ禍におけるペットボトルの販売は低迷気味で、荒茶価格に影響している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「肥料の高騰が不採算に拍車がかかり、経営が困難になると思われる」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「保険調剤は、調剤報酬の改訂がなされたが大きなマイナスとはなっていない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「大手ドラッグストアの調剤進出により、また長期的に来店者数の減少が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「自動車業界だけでなく家電業界もカーボンニュートラルの実現に挑戦している。電器店では省エネ家電の販売、太陽光発電システム、蓄電池の販売、家電リサイクル法への対応等、省エネに関するノウハウをトータルで顧客に提供している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「エアコン等の省エネ家電は、購入時は高額でも電気料金を比較すると安価で CO2 削減にもつながるので今後も需要はあると考えられる。テレビはインターネット動画配信が視聴可能な大型テレビに移行している」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「高齢化、不採算による撤退等で生産者は減少している。仕入れ価格は高騰している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「円安による影響は大きい。仕入れ価格が引き続き上昇するだろう」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…総じて仕入れ値の上昇に関する声が多かった。「コロナ禍でも、商品や販売方法により明暗は分かれている模様」「昭和レトロの復刻商品が人気である。吉原商店街においては、当金物店で昭和レトロの復刻ガラスコップ、ホーロー鍋等を販売。レトロの雰囲気を残すアドニスでは、復刻ガラスのレトロクリームソーダを販売。テレビ局や新聞で取り上げられ、話題を呼びそうである」「連日卸売業者から値上げの連絡が来る。玩具は富裕層のみにしか購入できないものになってしまいそうで先々不安である」「コロナで冠婚葬祭の形態が変化し、会合の減少、外出機会の減少など生活様式が一変した。貴金属や装飾品の需要が著しく低下している」「旅行や外食の本格的再開に伴い、化粧品の需要が活発になると予想されるが、コロナ以前に戻るかは疑問に思う」「インターネット通販の市場拡大や量販店の進出により小規模文具店の販路が狭まってきているように感じる。オリジナル商品の開拓が難しくなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「引き続き越境 EC（海外販売のオンライン販売）に取り組んでいる。円安が続いている現状、追い風となりそうだ」「すぐに回復は見込めそうにないので、加工、リメイク、修理等にウェイトを置き、経費の節約等をしていくしかない」「コロナやロシアのウクライナ侵攻を原因とする物価高騰で、国内消費はしばらく低調に推移すると思う。コロナ、ウクライナ問題の終息に加え、国内の賃上げ動向、効果的な財政政策の提示があれば回復基調となると思う」「コロナでダメージを受けた外食産業や旅行業が少しずつ改善してきているとの報道もあるが、弊社はまだ見通しはたたない」とのコメントが寄せられた。

『自動車・部品』…「令和 5 年 1 月より始まる車検証の電子化への対応が必要となる」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「商品不足が続いている。更にどのメーカーも値上げ傾向である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「商品不足の状況は変わらず、更なる値上げが予想される」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「茶農家の減少が続いている。宅地分譲や道路沿線の条件の良い場所の農地転用が進んでいる。コンビニの建設も目立ってきている」「吉原祇園祭が 3 年ぶりに開催された。活気を取り戻した 2 日間であった。サマーセール等で売上につなげていきたい。元気を出してやろう」「富士市サイクルステーション（八代町）がサイクリングイベントや講習会を開催しており自転車ブームの更なる追い風になっている。引き続き、頑張りたいと思う」「富士山ほろ酔いホッピング in 吉原を本年度は大々的に実施する。大勢の方に吉原の飲食店の魅力を知ってほしい」「吉原祇園祭を 3 年ぶりに開催。時間短縮、露店は南町公園にて限定とコロナ対策をした上での開催となった。吉原っ子としては楽しさいっぱいであった」「長年空き店舗になり見栄えも良くなかった近藤薬局東隣の旧パチンコ店がシェアオフィスになると聞いた。吉商本舗の後のテナントも内装が始まっていて空き店舗が減ってきている」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業 況	17.4	52.2	30.4	▲13.0	横ばい
売上高	26.1	43.5	30.4	▲4.3	上 昇
採 算	21.7	43.5	34.8	▲13.1	下 降

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『クリーニング』…「清掃・汚れ防止から衛生・抗菌・除菌へマーケットが変わっている。今後は徐々に売上は増えていくだろう」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「上海の港湾荷役が 2 か月間ストップしたことにより清水港の倉庫が一杯になり、富士市の倉庫の方まで影響がでている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「中国のロックダウンが解除になり、これからは順調になると思う」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「半導体不足により新車入庫が計画台数を大幅に下まわり、売上げ確保が困難であった」とのコメントがあった。

『不動産』…総じて供給過多という声が多かった。「住宅地購入需要が低い。コロナ禍での社会経済の低迷と、資材価格の高騰、分譲地の造成工事費の高騰が起きている。売上減に伴う利益減となっている」「需要があるのか不明だが、北部地域を中心に分譲地は増加している。また、市街化区域内の宅地処分を希望する地主が多い」「田畑を手放す方が多く、過度な分譲により地価が上昇しにくい状況が続いている。一方で、相続が順調に進まず、土地の処分が止まってしまっているケースもある」「燃料費の高騰は大きな懸念材料」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「見通しがつかない」「新型コロナ感染症も沈静化しはじめ、経済が回り始めれば、地方への移住希望者向けの物件などで期待ができそう」とのコメントが寄せられた。

『求人広告・広告デザイン』…「求人採用需要は増加。ただ、求職者の採用活動低迷の為、採用難が継続している状況」「多少明るい兆しが見え始めているように思えるが、業界としては低迷状態のため、新しい動きが見えてこない限り好転の見込みはない」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…総じてコロナ不況からの回復には大分時間を要するであろうという声が多かった。「顧問先の売上高の上昇は緩やかであり、回復までに時間を要するだろう。一時的に休業をしている法人もあるが、再開できたとしても得意先が戻ってくる可能性は低い」「士業間の過当競争が続いている」「顧問先がコロナ関連の支援金やコロナ融資を受け、厳しい中でなんとか耐えているのが現状である。士業もコロナ禍で現状維持することが精一杯の状態である」「事業復活支援金の申請は非常に手間であった。報酬に見合うものではなかった」「デジタル化やインボイス対応等で、今後ますます格差は広がり、二極化は進むであろう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後、平常活動となり各業界が活動するが、コロナ融資の返済が始まり、飲食業などは更に厳しい状況が想定される」「ウクライナ問題や円安等の影響を受け、物価高騰の中でキャッシュフローがまわらない中小零業者はますます厳しくなるだろう。結果として我々士業にも影響が出てくる」「長期低落が続くであろう」「事業主の高齢化と合わせて資金繰りで支障が発生し、今後は廃業する企業も増えるだろう」とのコメントが寄せられた。

『旅行業』…「旅行業界はコロナが終息しつつあり、少しずつ人が動き出した感がある。しかし、それは大手旅行会社と都会の話であり、地方に反映されるのはもう少し先の事だろう。実際、伊豆あたりでも観光バスは見えず、道の駅あたりで停車していた大型観光バスは全て大手旅行会社のものであった。一般団体が動くのはまだまだ先の話だろう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「先行きはまったく見えず、旅行業の形態も変わっていくであろう。一般団体が早く戻って来る様に、会議所も力を貸してほしい」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「世の中の人流は回復傾向だが、コロナ禍で通夜葬儀のあり方が変化して、人流は戻ってもやり方は戻らない。葬儀の小規模化はアフターコロナのニューノーマルとなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「冠婚葬祭において小規模化が加速して、企業もそこにシフトせざるを得ない状況となる」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「仕入れ値が上がっているが価格に転嫁しにくい状況である。激安店が適正価格になれば、状況は変わってくると思われる」とのコメントが寄せられた。

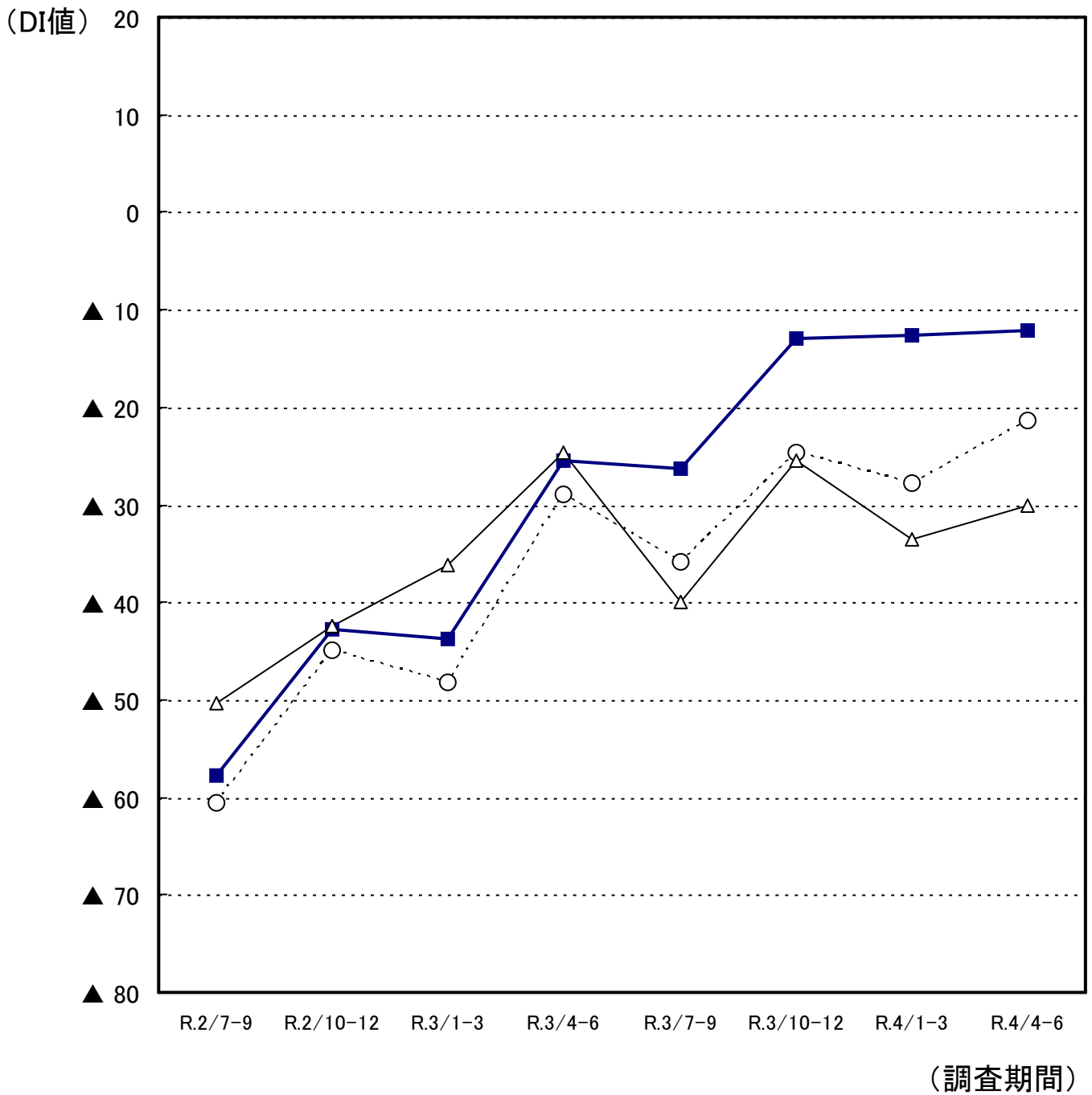
『各種学校』…「コロナ特需も落ち着き、通常の状態に戻りつつあるが、大学等ではオンライン授業は残っているので、地元の自動車学校は追い風傾向にある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「少子高齢化の波を止めることはできないので、今のうちに第二、第三の柱をきっちりと立て、進めていきたい」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「6月19日に軽トラ市が久しぶりに開催となり、盛況であった」「大手企業の動きは少しずつ生じているが、中小企業はまだまだ低迷状態」「富士駅南口に葬儀会館“家族葬の想‘駅南’がオープンした」「経営環境は決して楽ではないように感じる」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	17.2	58.6	24.1	▲6.9	下 降
売上高	34.5	41.4	24.1	10.4	横ばい
採 算	17.2	51.7	31.0	▲13.8	下 降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

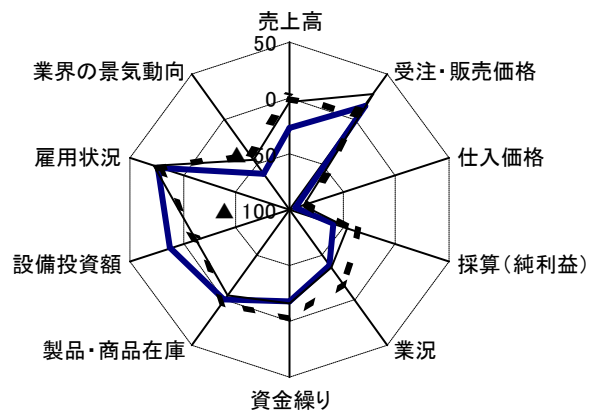


レーダーチャート

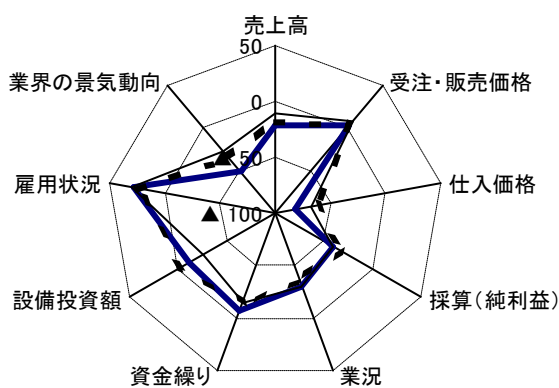
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

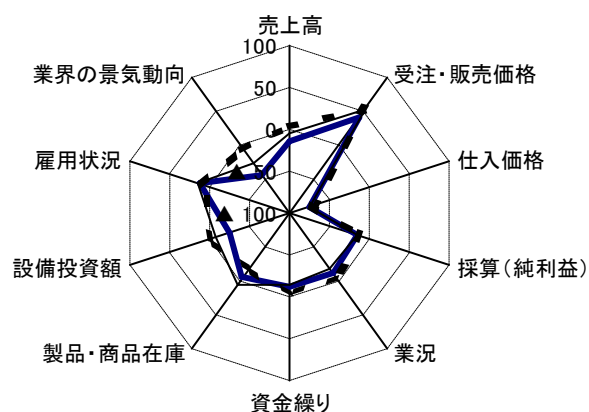
【製造業】



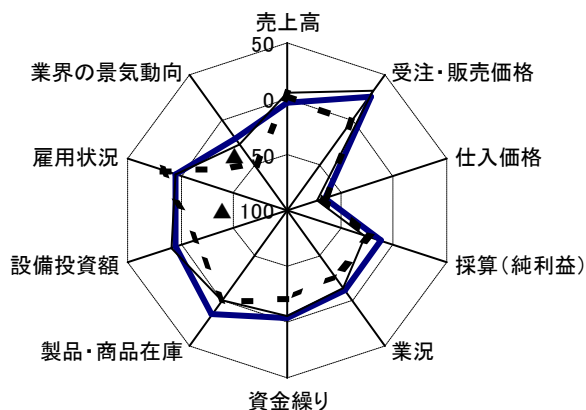
【建設業】



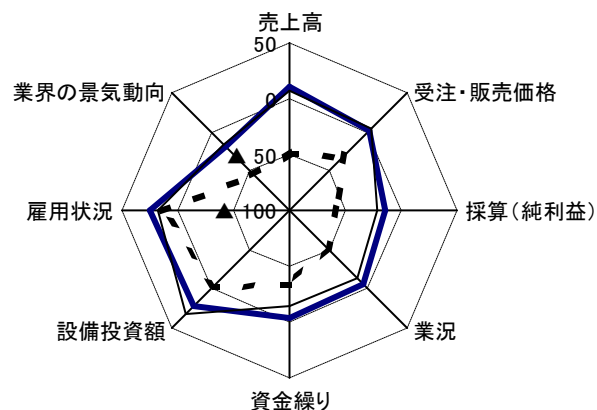
【卸売業】



【小売業】



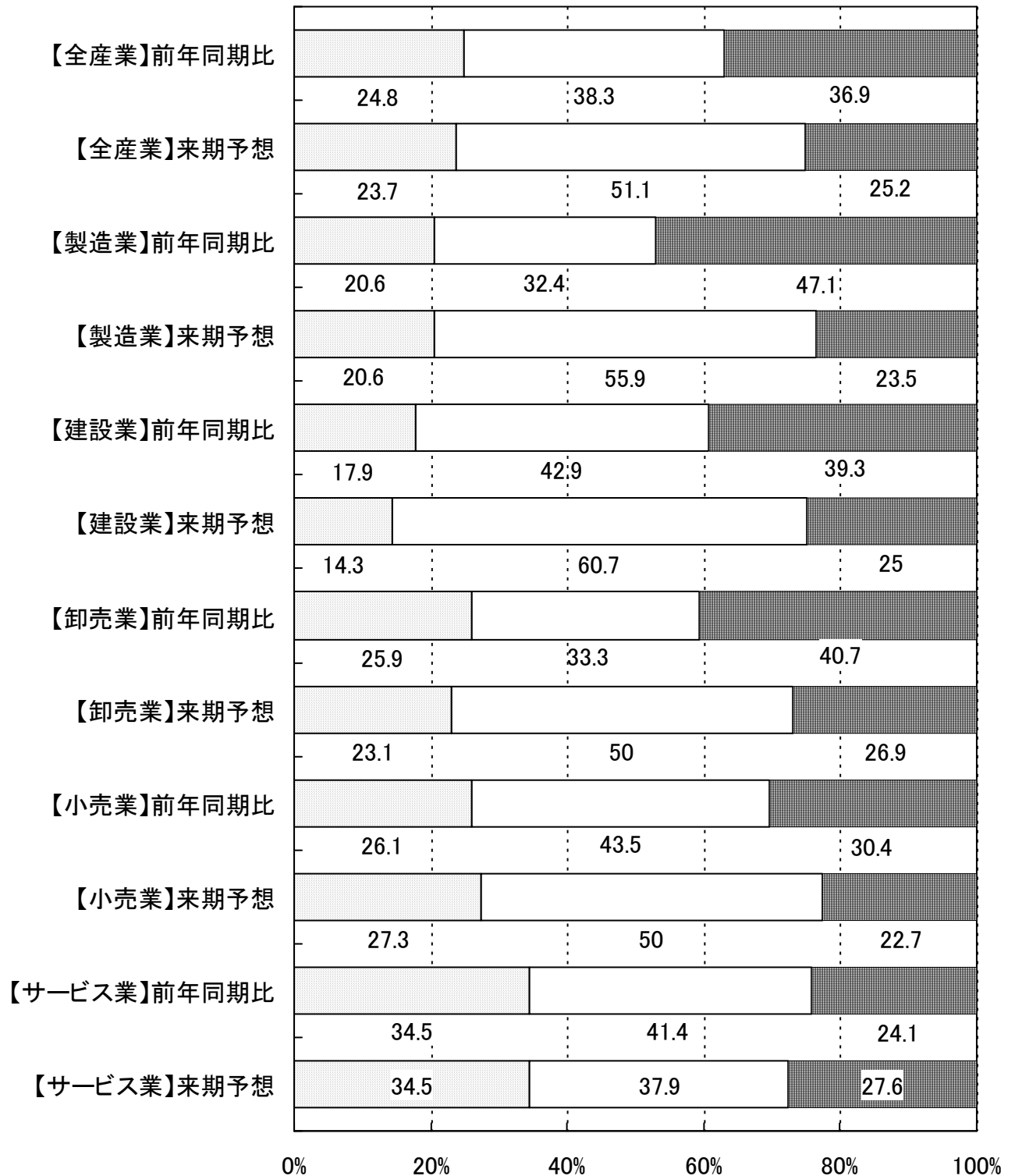
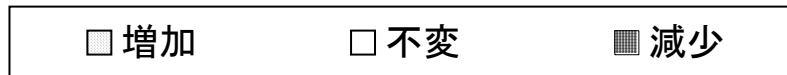
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産 業 別	上 位 回 答 項 目
製造業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 販売価格値上げ難 3 位 設備老朽化 その他 売上、利益減による資金圧迫
建設業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 人材不足 3 位 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫 その他 過当競争／販売価格値上げ難／その他の需要の低迷
卸売業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 販売価格値上げ難 3 位 売上減に伴う利益減 その他 売上、利益減による資金圧迫
小売業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫 3 位 過当競争／その他の需要の低迷／設備老朽化 その他 販売価格値上げ難
サービス業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 過当競争 3 位 人件費高騰／売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫／人材不足 その他 その他の経費増大

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2022 年 6 月 13 日）

日 本 銀 行 静 岡 支 店
照 会 先 TEL 054-273-4106

（概況）県内の景気は、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けつつも、基調としては持ち直している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は持ち直している。個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。

こうしたもとで、企業の生産は、供給制約の影響から弱めの動きとなっている。雇用・所得環境をみると、労働需給は改善傾向にあるが、全体としては引き続き厳しい状態にある。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

- （1）個人消費（前回からの変化） → 財消費は堅調ながら、一部品目における供給制約の影響や、飲食・宿泊等のサービス消費における下押し圧力の強まりから、持ち直しが一服している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、持ち直しが一服している。コンビニエンスストア売上高は、持ち直している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、緩やかに持ち直している。

- （2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：22/4月▲5.8 ➡5月▲27.9%）

- （3）設備投資（前回からの変化） → 持ち直している。
（短観・設備投資額：21年度計画4.2% ➡22度計画15.8%）

- （4）住宅投資（前回からの変化） → 横ばい圏内の動きとなっている。
（新設住宅着工戸数前年比：22/3月5.0% ➡22/4月▲11.7%）

- （5）輸 出（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（輸出額前年比：22/3月3.1% ➡22/4月6.1% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 供給制約の影響から弱めの動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：22/2月4.3%→3月1.0%<速報値>)

自動車・同部品は、供給制約の影響から弱めの動きとなっている。二輪車・同部品は供給制約の影響から持ち直しの動きが一服している。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、供給制約の影響から持ち直しの動きが一服している。化学は、弱めの動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、増加している。紙・パルプは、一部に弱さがあるものの、持ち直しており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善傾向にある。(→)

雇用者所得：悪化している。(→)

(有効求人倍率 季節調整値：22/3月1.24倍→22/4月1.27倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比22/3月0.7%→4月2.0%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。

(22/5月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(18件<前年比：20.0%>)
負債総額(18億円<同：▲24.7%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：22/3月末+2.0%→22/4月末+2.3%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：22/3月末▲1.7%→22/4月末▲1.4%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース) (水準：22/3月1.355%→22/4月1.349%)

以 上